

俳句部門 複数句の部

【優秀賞】

「背骨のやうな」 清水 航

山笑ふけふ犬小屋の起工式
手は海の色に染まらず雛流し
シクラメン肉屋のレジの招き猫
植木鉢の大きな穴や鳥曇
集むれど集むれど散るがうなかな
向き変へて絞る雑巾瓜の花
寝違へし首の重さよ水海月
木刀の大鋸屑払ふ夜涼かな
手花火の膝に絆創膏の跡
電柱を蚯蚓の墓と思ひけり
爽やかや鳩にも二つ鼻の穴
口角をすこし上げたるばつたかな
水槽の砂利の偏り台風来
唐黍を切つて背骨のやうな芯
手払に土の匂ひや火恋し
都鳥一朵の雲も寄せつけず
食卓の常より狭しクリスマス
文旦や零れさうなるチワワの目
独楽回す漬物樽の蓋の上
縄跳びといふ羽に身を委ねつつ